

災害時行動は？住民ら楽しく学ぶ

四日市・富田地区「防災ロゲイニング」



四日市市富田地区市民センターは23日、地区内の防災拠点などを回って点数を競う「防災ロゲイニング」を実施し、住民50人が地区内を歩いて災害時の行動について考えた。

地区の多くが海拔1〜2メートルで津波の危険性が高く、災害時の避難場所や動き方を考えてもらおうと昨年頃から開催している。チェックポイント25カ所のうち20カ所は防災拠点を設定。制限時間は2時間で、参加者は目的地に到着すると点数を集計するための写真を撮影した。

津波避難ビルにもなっている北星高校では、同校ポ

「命の矢印」の前で写真を撮る参加者＝四日市市の北星高校で

ランティア部が作成した高台への方角を示す「命の矢印」についてアンケートも実施。参加者はパネルにシールを貼って、逃げる方向の分かりやすさを5段階で評価した。

富田中学校2年の岡田莉緒菜さん(14)は「楽しく防

災を考えられた。避難するときは山側に逃げるようにしたい」と話した。富田地区連合自主防災隊の渡部悟隊長(76)は「普段からの備えで被害は最小限に抑えられる。いろいろな角度から防災に取り組みたい」と話した。
(轟野乃子)